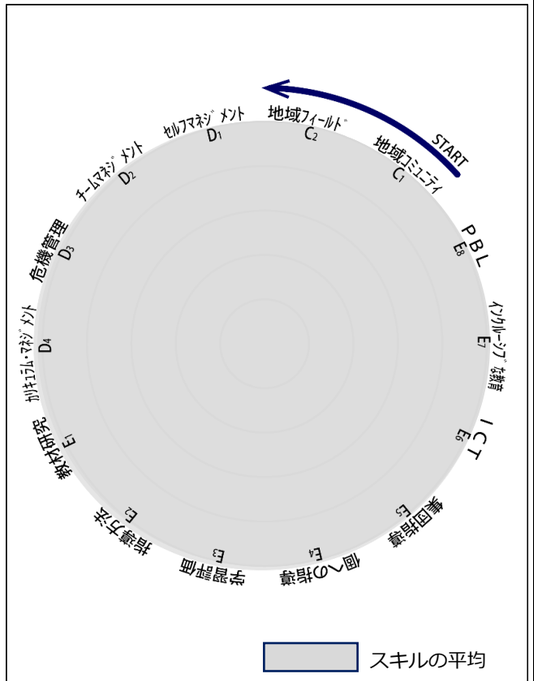
セルフチェックシート　（キャリアアップ研修Ⅰ）

キャリアステージ	Ⅰ 基礎形成期相当 （経験1年から5年程度）
学校名	
氏　名	
職　名	



セルフチェックのまとめ

理念指標	繰り返し自覚し絶えず意識化を図る資質能力	日頃の心構え
A　高い倫理観と使命感及び確かな子ども理解　①社会の秩序と規律を遵守し、信頼される存在 ②教員としての責務の自覚　③子どもに関する確かな科学的知見と深い人間愛		
B　確かな人権意識と共感力 ①全ての人の人権を尊重する態度　②児童生徒や保護者の思いを感じ取る力		

実務指標		資質能力を支えるスキル		キャリアステージで身に付けるスキル	セルフチェック項目	評価
経験や研修を積むことで高めていく資質能力	C 地域社会と連携・協働する力	C1	地域コミュニティの拠点としての学校づくり	・地域の活動や行事に積極的に参加したり、地域の方と交流したりして、地域理解に努める。	地域の行事や活動等に参加したり、地域の方と語り合ったりして、地域の特色や実情をつかもうとしている。	
					地域の方と交流し、社会性を高めたり、知見を広げたりしている。	
					地域に開かれた学校が求められる理由や地域と共にある学校づくりの仕組みを理解している。	
		C2	地域をフィールドにした学びづくり	・地域素材を教材化したり、地域での体験学習を取り入れたりして、児童生徒が地域を理解し、そのよさを実感できるようにする。	地域の特色や、地域の方が大切にしている思いや願いを理解しようとしている。	
					地域に目を向けたり、足を運んだりして、地域のよさに学ぶことができる素材を教材化して授業を構想している。	
					「ひと・もの・こと」に直接触れる体験活動を取り入れた学習を展開している。	
	D 目標実現に向け、柔軟に対応する力	D1	セルフマネジメント	・ワークライフバランスを重視し、健康や時間を自ら管理しながら、職務に向かうコンディションを維持する。 ・自己課題に沿った研修を実施し、周囲の助言や自己の振り返りをもとに、成長し続けようと努力する。	タイムマネジメントを心がけ、ワークライフバランスを大切にしたバランスのよい生活を送ろうとしている。	
					セルフチェックシートを用い、自己の強み（よさ）と弱み（課題）を把握しようと心がけている。	
					謙虚に学び続ける教師であり続けるために、先輩や同僚の教員からの助言、経験談に耳を傾けて学ぼうとしている。	
		D2	チームマネジメント	・チームの一員としての自己の役割を自覚し、任せられた職務に対して誠実に取り組む。 ・チームの目標を理解し、同僚と協力して目標実現に向けて努力する。	チームの一員としての自己の役割を自覚し、任された職務に対して誠実に取り組んでいる。	
					チームとしての目標を理解しながら、学年会、教科会等に、自ら求め、参加している。	
					職員間の人間関係をより豊かにしながら、同僚と協力して目標を実現しようとしている。	
		D3	危機管理	・信頼される学校を実現する上で、危機管理やコンプライアンスが欠かせないことを理解し、危機の未然防止や発生時の対応に確実に取り組む。	危機管理やコンプライアンスについて理解し、防止のために日常的に意識している。	
					危機の未然防止の重要性を理解し、日頃から児童生徒の観察や安全対策を行っている。	
					危機発生時の対応について理解し、確実に対応することができる。	
		D4	カリキュラム・マネジメント	・日々の教育活動を「目標ー内容ー方法ー評価」のセットで捉え、意図的・計画的に実践する。	授業を「目標ー内容ー方法ー評価」のセットで捉え、構想している。	
					学校教育目標と関連させて、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通し、単元計画を立てている。	
					個々の児童生徒の状況を把握しながら、課題を決め、具体的な構想、手立て、評価を行っている。	
	E 「教育のプロ」としての高度な知識や技能	学習指導	E1	教材研究（Plan）	・教科等の特質に応じた「見方・考え方」を活用して、「知識・技能」を確実に身に付ける授業を構想する。 ・「習得ー活用ー探究」の学びの過程を通して、児童生徒が「思考力・表現力・判断力等」を高めていく単元を構想する。	「児童生徒」「教材」「問題解決の過程」をバランスよく理解して授業づくりをしている。
						基礎的・基本的な「知識・技能」を確実に身に付ける授業をしている。
						児童生徒が「思考力・表現力・判断力等」を高めていく単元を構想している。
			E2	指導方法（Do）	・「授業がもっとよくなる3観点」や「信州Basic」を踏まえた授業を確実に行う。 ・「アクティブ・ラーニング」の視点から、授業改善に取り組み、児童生徒の個性に応じた質の高い深い学びを引き出す。	「信州Basic」等を踏まえて、授業に必要な基本的な指導について理解している。
						「ねらいを明確に」「めりはりをつけて」「ねらいの達成を見とどけて」の3観点を意識した授業を行っている。
						「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善に取り組んでいる。
			E3	学習評価（Check-Action）	・「目標に準拠した評価」により一人一人の学習状況を把握し、適切なフィードバックを行って内容の確実な定着を図る。 ・児童生徒が自己評価を行うことを学習活動に位置付け、学習内容の価値や自己の高まりに気づかせる。	学習指導要領の目標に準拠した評価の計画を立て、児童生徒一人一人の学習状況を的確に把握している。
						児童生徒に対する学習評価を指導の評価として捉え、授業改善や指導の工夫に生かしている。
						児童生徒が学習内容の価値や自己の高まりに気づけるよう、自己評価の場面を授業に位置付けている。
		生徒指導	E4	個への指導	・児童生徒の内面を共感的に理解し、信頼関係を構築する。 ・保護者や同僚と連携し、児童生徒を取り巻く環境や抱えている課題を的確に把握し、指導に生かす。	児童生徒の内面を共感的に理解し、一人一人を大切にしている。
						学年会や職員会などで児童生徒の話をしている。
						適応に課題を抱えている児童生徒に、置かれている背景をふまえながら、次の一歩を踏み出せるような支援をすることを心がけている。
			E5	集団における指導	・集団生活を送る上でのルールづくり、人間関係づくりを通して、児童生徒の社会的スキルを高める。 ・自発的・自治的な活動を重視し、児童生徒の集団への所属感や連帯感、問題解決力を高める。	児童生徒の社会的スキルの向上を目指し、集団生活の中でのルールづくりや、人間関係づくりの活動を行っている。
						児童生徒一人一人を理解し、個に応じた役割をもたせている。
						集団の目標を達成するため、それぞれの役割を担ったり、自分たちの力で問題解決を行ったりできるよう指導している。
		現代的な諸課題への対応	E6	ＩＣＴ活用	・学習目標の達成や校務の効率化に向け、学校にあるICTを効果的に活用する。 ・児童生徒の発達段階や実態に応じ、具体例に基づいた情報モラルの指導を行う。	ICTを効果的に活用している身近な教員から、具体的な活用例を聞き、活用例を参考にしながら、校内のICTを活用している。
						情報社会の進展に伴う、児童生徒のICT活用の実態や状況把握に努めている。
						児童生徒の発達段階やICT活用の実態をもとに、具体例に基づいた情報モラルの指導を行っている。
			E7	インクルーシブな教育	・発達障がいや「合理的配慮」等に関する基本的な知識や考え方を身に付け、障がいの状況や教育的ニーズを踏まえた個に応じた支援を行う。 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学習環境づくりに取り組む。	児童生徒のよさに気づき、本人の困った気持ちに共感しながら児童生徒の理解を深めるとともに、個別の教育支援計画・個別の指導計画を作成する意義がわかり、作成することができる。
						合理的配慮について基本的な考え方を理解し、特別支援教育コーディネーター等と相談しながら、個に応じた合理的配慮を行うことができる。
						「全員が力を発揮し、認め合う学級づくり」等を行いながら、授業のユニバーサルデザイン化に取り組んでいる。
			E8	ＰＢＬ	・PBLの手法を身に付け、ファシリテーターとして、深い学びの実現に取り組む。 ・児童生徒や地域の実態に基づき、総合的な学習の時間のねらいを実現する学習プランを作成する。	児童生徒に対して適切な課題を設定し、総合的な学習の時間のねらいを実現する学習活動を展開している。
						児童生徒が、実社会や実生活との関わりを重視した課題を設定し、つながりを意識した探究活動を行っている。
						児童生徒が、ICTを活用して効率的な情報収集を行うとともに、言語活動をしながら適切な課題解決策を導き出している。